

## 近代の福祉に生きて女性パイオニア(その6)

—フローレンス・ナイチンゲースとジェーン・アダムス—

鈴木 真理子

## Women Pioneers Who Lived for Social Work (6)

Chapter 5 The importance of their achievement in today's society

—Florence Nightingale and Jane Adams—

Mariko SUZUKI

What Nightingale spent most of her effort at battlefield was not the struggles against inadequate facility of hospital, rapid spread of infectious diseases or rough behaviors of soldiers. It was the British Army which was on the same side as her at the point of battle. In the British Army, commanding officers were greatly obsessed with their own conservative status. Governors rejected any new idea and soldiers only kept supply without thinking of the use of it. Also people around Nightingale were neither cooperative with her work. For example, sisters who believed that spiritual relief comes before physical cure and former nurses at the hospital, obstructed her all new attempts with intolerance. Generally speaking, betrayal and conspiracy of the same side led to the defeat in the battle.

On the other hand, after experiencing several wars such as War of Independence and Civil War, American people learned what would become of struggle and fight. This leads to the attitudes to accept new things and U.S.A succeeded in consisting a nation with people who have different cultures and backgrounds. Thus it was easy for Adams to begin the new social project in Chicago.

Their achievement did not only affect forming the education of nursing and settlement movements but reforming society with new attempts. As it is clear from the case of Nightingale and Adams, pioneers of social welfare are destined to be reformers of old system solving social contradiction in order to improve people's life at a particular time.

### 第5章 二人の成し遂げた仕事の現代的意義

#### 1 多くの協力者と敵対者

##### —古代キリスト教福音の実現—

1892年8月、イギリスからの最初のピューリタンたちが上陸した記念すべき土地、マサチューセッツ州ブリマス<sup>1)</sup>において、アメリカ各地で芽をふいていた数すくないセトルメント活動の代表者たちが、「博愛と社会の発展」というテーマで討論する機会をもった。

夏の海に面した松林の中では「セトルメントの主観的必然性」、「思想と行動との統一」、「民主主義の大衆を通じての実現」、「人類のよき生命力の遺産の活用」などのテーマで熱心な討論が繰り広げられた。ボストンからのアンドバー・ハウス代表、大学セトルメント協会代表、そしてハルハウスからはジュリア・ラスロップ<sup>2)</sup>とアダムスが参加していた。

この頃のセトルメント活動、社会改革運動自体が英国からの伝統であり、キリスト教世界の実現、隣人愛

の実践の色彩が強かった。アダムス自身もセツルメント活動とは階級の相互作用による関係改善を目的とし、キリスト教の復興と社会化であると信じていた。アダムスが古代キリスト教の「よき知らせ」に傾倒したのは、キリスト教世界の伝道、聖書のプロパガンダ的利益や組織拡大の活動と無縁だったからだ。「イエスは一つの啓示、すなわちそれをいのちと呼ぶ。古代キリスト教徒は、「すべての人を愛せよ」という福音の知らせをただ単純に、喜びをもって受け入れた。神なる羊飼いのイメージはキリシヤ神話よりもっと楽しげにみえた。」<sup>1)</sup>

アダムスはキリストの原理に忠実であるが、必ずしもキリスト教にさえこだわらない普遍的な宗教観をもっていた。キリストの真理は「信じることが自由」であり、「真理は行動を拒否しない」と確信しており、ハルハウスにおいても決して宗教や思想・主義で差別せず、多くの社会主義者、唯物論者、労働組合活動家にもその活動の場を提供している。「初期キリスト教はすぐれた無抵抗主義者であった。愛を広大な絶対的な力として信じていた。教会がこの小さな平和を維持していた間は偶像崇拜はなかった。異郷との寺院を非難、破壊することもしなかった。またこの世の終わりを説くこともしなかった。すべての人を愛するということは古代ローマ人がかつて見たことのない驚くべき光景であった。キリスト教徒は弱者、子供や老人のために身を犠牲にして働き、奴隷とともに働き、疫病も恐れなかった。(中略)それはすべての人のうちにあるキリストを見いだす喜びであり、それは友情の他には見いだすことのできない喜びである。幸福は英雄から農夫にいたるまで、あらゆる者を包みこむものである。生活が新しい意味をもち、新しい行動をもつ限り、神の啓示をもつことができるのである」<sup>1)</sup> このようにアダムスは古代キリスト教の福音に、すべての宗教のエッセンスを見いだしているが、これはセツルメントの人道主義に通じている。

#### ーハルハウスのレジデントたちー

ナイチンゲールにおいて看護という科学の実践がキリスト教と合致していたように、アダムスの社会運動もキリスト教と矛盾しなかった。「セツルメントはあらゆる思想を拒否しない。同様に深い寛容さをもつたねばならない。愛情をもちいつでも事業を開始できる態勢と、レジデントから忍耐強く科学的な事実を

集積して行かねばならない。」<sup>3)</sup> レジデントとはハルハウスにある期間滞在して、ハルハウスの事業活動に協力してくれるあらゆる者を呼ぶ。イギリスからの社会運動家、文化人、芸術家、ジャーナリストなどの著名人から、学生、アメリカ全土からの無名のボランティアまで、無数のレジデントがハルハウスのゲストブックに名前を連ねた。

ハルハウスの活動は保育園、独身女性下宿（ジェーンクラフ）、青年クラブ、読書クラブなどのサークル活動から、画廊、コヒーハウス、体育館、給食サービス、公衆浴場、食堂、貸しホール、石炭販売協同組合、職業斡旋所まで多岐にわたっている。中には保育園、青年クラブなど大変発展して十分な認知と成果を上げた活動もあった。一方民族独特の食生活に思い至らなかった給食サービス、少しでも貯蓄投資して株を買おうという発想が貧困住民にはほとんど無く、事業消滅した共同組合活動など、いくつか不成功のものもあったが、概ね歓迎利用された。特にコヒーハウスは近隣の住民たちの自由な集まりに頻繁に利用され、清涼飲料水の飲めるコーナーのあるホールは、ダンスパーティや結婚式になくはない場所であった。これら一般住民の生活やレクリエーションに関する活動は住民の生活に溶け込み、住民生活のレベルアップ、社会化に大いに寄与した。

そして貧困者のための救済所とホームレスのための簡易宿泊所、そして失業者には職業斡旋所を開設、女性には縫い子、男性には町の清掃や道路工事の低賃金の仕事を紹介した。また貧困な労働者を団結させ、非人間的な荷重な労働や低賃金を改善するために、交渉する代表となる幾つかの労働組合もハルハウスに源を発する。安い家内仕事の内職をしていたイタリア女工たちの組合結成に力と場所を提供し、労働と家庭の労苦で打ちひしがれる女性たちにささやかな同士の励ましと相互支援、友情の安らぎを与えた。

#### ー労働者社会科学クラブと社会主義ー

しかしハルハウスが担ったのは現代のコミュニティセンターのように、平和で気楽な集会所の役割だけではなかった。1889年、創設された頃のシカゴは、ヘイマーケット騒動<sup>6)</sup> から2年経過しており、以前の労働運動弾圧の時代から多少市民を巻き込んだ理論闘争、穏健運動に移行していたが、まだ闘争的な空気が労働組合指導者には残っていた。ハルハウスのレジデント

たちは、常にこのような労働運動や経済論争に引き込まれそうになったり、惑わされたりする者もいた。初期の若きレジデントは血の気も多く、慈善や社会事業は貧困や労働問題においては、一時的鎮痛剤にしかならないという悲観論に陥るものもいたが、一部の無政府主義者<sup>7)</sup>や労働闘争運動家のように過激な行動にすることはなかった。

1890年、ハルハウスにイギリス人労働者によって経済と労働、雇用問題を理論的に語ろうという「労働者社会科学クラブ」が生まれた。以後、7年間、毎回数十人から百人の会員を集め、内外の学者やジャーナリストの講演、そして熱気溢れた自由討論が夜遅くまで展開された。時はちょうどシカゴ世界博覧会<sup>8)</sup>が開催され、シカゴ大学には社会学部が新設されるという、新しい社会科学のテーマが人々の興味と情熱を集めていた時代である。初期のハルハウスが過激な社会主義に傾いているという評判は、このクラブの存在による。このクラブの中心グループはドイツ人とロシア人が中心の唯物論的マルクス経済<sup>9)</sup>で理論武装した一派で、資本の集中と独占により、大衆の利益は資本家に搾取され、それに対する階級闘争によって歴史は必然的に社会主義へ向かうと信じ込んでいる、一部の過激で教条的な社会主義グループであった。

あらゆるものを唯物史観に還元し、社会主義以外のものを認めず、自分達こそ世界中の労働者の代表のように思い込んでいるこの集団、これに敵対するのは無政府主義者か資本家の手先と呼ばれる個人主義者、または社会主義者でも穏健派と目される、民主主義を踏まえて機会の平等とすべての人の自由と権利を守ることこそ国家の役割とする一派である。その他、個人の教育だけでは貧困問題解決は不可能という悲観的社会主義者、個人の意識改革により社会改編は可能とする楽観的社会主義者、また社会主義に絶対服従の宗教的神秘性を粉飾してマゾヒジックな自己陶醉を利用する社会主義宗教の一派、その他にも貧困者や労働者に団結と連帯の甘い社会主義ユートピアの夢を抱かせる扇動者、また中にはキリスト教と社会主義の融合を試みて教会から出て工場で働き、労働運動に投じる若い牧師や神父もいた。

#### 一 中道左派の曖昧な立場一

アダムスはそれらの多種多様な分子の狭間で、社会主義者から立場を明確にするよう強要された時、「何

百人の支援を受けようとも思っていない。また労働者から脅迫されようとも思わない。私は資本家にも労働者にも相談しないで自分の意見をいう」<sup>10)</sup>という独自の立場を堂々と述べた。それは初期には新鮮で両派から好感をもって認められた。しかし社会主義者の予言どおり、工場の大規模化による労働者の過重労働、資本家の搾取が現実化し、労働組合運動が激化し、労働規制法を要求する動きが増し労使の利害対立が先鋭化すると、アダムスのどちらにも組まない立場は、優柔不断や卑怯ととられ、中立は維持できなくなった。

資本家と労働者の力関係があまりに不均衡な時期には弱い労働者側に味方して組合をつくる支援をし、労働者たちが団体交渉やストライキなどで対抗できる力を蓄え、その敵対と衝突が激化する場合には、調停役として双方が折り合える妥協点を提示し和解させる。これがアダムス、すなわちハルハウスの役割だと思っていた。しかし調停役とはどちらからも恨まれる役である場合が多い。そしてストライキで一般大衆に迷惑をかける場合はさらに非難が増す。1894年のブルマン工場の労働者たちのストライキ<sup>11)</sup>は、それをきっかけに全米の鉄道関係労働者を巻き込むゼネストに発展した。アメリカ中の主要交通網は麻痺し、大混乱を引き起こし、軍隊までが出動する結果となった。あらゆる物資の輸送が渋滞し、流通関係、一般旅行者に与えた被害は大きく、経済界からも一般国民からも、ストライキに味方する立場を表明したハルハウスは大きな恨みをかった。おまけに擁護したつもりも組合側からも、軍出動の制圧で首謀者の逮捕や首きりが行われると、裏切り者扱いされるという二重の誹謗をうける結果となった。かくのごとく仲裁役、中道派とは報われない立場になる。

「思想の異なった人達が討論を行い、互いに修正しあい、寛容さを身につけ、世界をひとつの理論で統一しようとしても無駄だということを理解させようとしたのである。理論の対立を認めず、世界はただ一つの原理で統一できると大衆が信じたとき、全体主義は生まれるからだ」<sup>12)</sup> アダムスがハルハウスの初期に穏健から多少過激な社会主義者を招き入れたのは、イギリスのセツルメントに源を発する社会改良思想に通じる情熱を認めたからであり、そのようなあらゆる運動と思想の発展に場所を提供し、討論し、理論や運動を成熟させ、急進的、過激な行動に走らせないことも、ハルハウスの役目と自覚していたからだ。

しかし時代の対立は、そのような民主主義の醸成、穏健社会主義で繕える程度を凌駕していた。多くのスパイ行為、首切りや、スト敗り、労働者同士のリンチ、マフィアや軍の介入という力による制圧、多くの逮捕者や家庭の崩壊という犠牲を累々と積み重ねて、ストライキは崩壊した。そしてアダムスの中道の意見はマスコミから全く無視され、獣と鳥の間を行き交うごもりのごとく非難中傷され、ハスハウスは多くの賛同者と資金の支援者を失ったばかりでなく、シカゴ市民からの信頼も失った。まさに冬の時代に向かう。

## 2 二人の女性改革者（リフォーマー）たち ーハルハウスの女性活動家たちー

産業革命以降、生産に与し社会システムを支配する層、それに力に対抗しようとする層の対立は深まっていた。無論それは男性集団であり、各層の主義主張の相違による抗争は、常に大きな犠牲を個人と社会に与える。両者の協調を掲げたハルハウスの活動家の中には、実業界で名を上げたジェネラル・エレクトリックの社長、ジェラルド・スオブ、後のカナダの大統領となったウイリアム・リオン・マッケンジーなど多くの男性もいるが、なんといってもハルハウスの名を世界に広めたのは女性レジデントたちであった。初期にはメアリー・ロゼット・スミス、ジュリア・ラスロップなど上流階級の娘が多かった。メアリーは幼稚園と保育園に自分の資金を投じて協力し、アダムスの右腕、生活の上でもパートナーで、後々心の憩いとなる存在となった。ラスロップは法律を専門に学んでおり、機知に富みエネルギーで、クック州救貧院顧問、州立慈善事業委員会、後の連邦児童局初代局長にも任命される活躍をした。学生時代からの友人で創設にかかわった芸術家のヘレンは社会運動でもデモ行進など直接行動を主張し、意見の食い違いが後々アダムスと一線を画すようになっていた。その他、公衆衛生の分野で地域のごみ問題に取り組んだハミルトン夫人、彼女はミシガン大学の医学博士で医学専門学校で教えながらハルハウスの母親教育、子供や老人の健康相談で住民に慕われた。後にハーバードで公衆衛生の教授になるまで、ハルハウスの住人でスラム地区の公衆衛生の向上に貢献した。

また強烈な個性と大柄な体型により『煙をく火山』と呼ばれたフローレンス・キリー。彼女は離婚した直後、3人の乳幼児を連れてハルハウスに駆け込み、そ

のまま住人として児童と女性の労働条件改善のための工場法制定への推進役になった。彼女の父親は裁判官や議員を歴任した名門で、コロネル大学卒業後、スイスの大学で社会主義に触れ、社会労働党に夫であるポーランド系ロシア人医師と参加していた。ニューヨークに戻ってからも、児童の過重労働などを批判する論文、講演を行っていたほどの筋金入りの社会主義者である。彼女は当然無心論者で、宗教関係の行事、習慣を否定しており、ハルハウスでの祈りの時間やアダムスの宗教性を唯一人、冗談ばく皮肉ることができた存在であった。それでも児童福祉向上への貢献度は大きく、児童女性を深夜労働から守る労働法の成立と施行のため、アダムスと協力して後世に価値ある業績を残した。

またこれらの教養ある上流階層の女性とは別に、全くの女子工員あがりのアイルランド系赤毛のメアリー・ケニーもいる。縫い子から製本、印刷技術を身につけ、シカゴ最初の女性製本労働者組合を組織した人物で、ハルハウスに女子労働者に関する講演にやってきてアダムスに共鳴し、女子工員のための下宿、ジュニーハウスを企画し軌道にのせた。これはストライキのため失業して賃金がもらえず、下宿を追い出される女子労働者に住まいを提供する事業である。彼女の實力の程は後ボストンに進出し、全米の労働組合連合会の組織者となったことから明らかである。このようにアダムスの周囲には、主義主張、信仰、人種、階層などすべての差異を包容する雰囲気があった。これはアダムス自身の目先の色分けなど超越する行動原理であり、全体主義や暴力主義以外なら無知怠惰、犯罪さえも見逃す寛容さと器量があった。極貧のためハルハウスに空き巣に入った男でさえ身の上話を聞いてやり、働く気があるならと説得して日雇いの仕事を紹介したエピソードもある。

## ースラムの子どもの環境改善運動ー

これらの女性レジデントの人種、階層、年齢のより弱い立場の人々に組みする姿勢は、ハルハウスの女性、児童のための活動として、労働争議ほど世間に騒がれることはなかったが、逆に後世に遺産となる業績を積み上げていた。それがイリノイ労働法<sup>13)</sup>の成立であり、ごみの処理や道路・下水の公衆衛生改善、青少年の矯正のための少年裁判所制度<sup>14)</sup>の結実である。しかも行政に働きかけ制度として成立させるだけでなく、レジデントたちは実効性を持たせるため、運用や監視の

協力まで女性特有の根気で実践した。ごみ収集馬車にのって毎朝、管轄地区のごみを収集するのに同行したり、慈善施設の開設当初の運営を切り回したり、少年裁判所や児童保護関係事業の委員となって発言し、労働法の施行については執行監視員となって工場を視察し、アフターケアにも尽力して制度に魂を吹き込んだのである。これは政治的な目的で制度を成立させたわけではなく、地域の不衛生さで多くの児童・子供の生命が脅かされ、多くの非業な死により母親の生きる希望を喪失させるのを見かねたからである。貧困により幼児まで働かせる過重な深夜労働や劣悪な労働環境により、事故や病気で命を落とす子供と、その母親である女性の悲嘆を減らしたかったからである。その時代、地域の工場の労働環境は、歴史的に苦汗労働 (sweat shop) と呼ばれるほど、低賃金、過重労働であった。

移民の貧困家庭では英語が話せず仕事にありつけない両親に代わって、多少の会話を操る子供が工場に出て生活費を稼がねばならず、学校を長期欠席するのも稀ではなかった。飲んだくれの父親が犯罪に走り刑務所暮らし、または幼い子供を働かせて自分は賭博や政治談義に家をあける、または不運にも事故や病気で一家を残して他界したなどという不遇な家庭は数限りない。一方母親たちは、「私が苦勞して働いている目的は、子供に良い機会を与えてやりたいから。良い仕事につくため、少しでも高い教育をつけてやりたい」「アメリカへ渡った理由は、子供の人生がよりチャンスに恵まれ、よい環境をあたえたいからです」「アメリカでは教育がなければ見離されますから、息子に教育をつけなければ」と、こどものための集会、活動には熱心で協力的であった。<sup>15)</sup>

現場監督の人数削減で子供だけでプレス機械を動かして巻き込まれて亡くなった子供、遊び場といえば道路のごみ置き場しかなく、そこで赤痢にかかった幼児、クリスマスの時期心の誘惑にまけて妹たちへのプレゼントを万引して捕まった少年、賃金はすべて父親に取られガールフレンドとダンスにいく切符欲しさに恐喝をした青年、たわいないまがいもののアクセサリ欲しさに体を売った女子店員、毎日の単純な肉体労働をダンスと酒で癒そうと退廃的になる少女たち、ハルハウスの20年には、そのような過酷な境遇下での不幸なエピソードが多く語られている。子供や家族のために必死に働き、ビルの清掃、洗濯工場、食肉工場での過労のために命を縮めた母親の数も知れない。

そのような母親にかかる生活の負担、僅かな賃金のために深夜まで肉体労働に成長の養分を吸い取られる児童達のため、ハルハウスのレジデントたちは14歳以下の労働、深夜労働の禁止などを盛り込んだ、全米でも革新的であるイリノイ労働法成立に心血を注いだ。衣料関係労働組合、婦人下着・婦人服工員組合の中心事務員の多くはレジデントであり、労働時間8時間を提唱するには時期尚早と見て、「婦人労働10時間法」の成立に寄与した。これは育児、教育、経済、家事のすべての負担を負う母親たちへ、同じ女性としての強い共感と連帯から発している。「この町の初期の人々については、私の心の中に共感をもって正確に思い浮かべることができる。」<sup>16)</sup> 多くの隣人の中に誠実さと善良さを見いだせたのは、アダムスの父親譲りの民衆を誇りに思う信念と、真摯な人間への共感があったからであった。

#### －クリミアからの生還－

ナイチンゲールの重体は一早く本国に伝えられた。その命をかけた兵士への献身が女性の鏡として、新聞で英雄、偶像扱いで紹介された。それに触発された称賛の歌や詩が町中に溢れ、ビクトリア女王から親書と宝石のついたブローチの贈られた。<sup>17)</sup> 本人はその栄誉を格別喜びもしなかったが、病室の兵士たちは、ナイチンゲールの栄誉を自分のことのように喜んで、そのブローチをした彼女の姿を見たがった。病状重くベッドで寝たっきりの兵士達にせがまれてそのブローチを身につけることはあっても、自らつけることはなかった。そのころロンドンのナイチンゲールの家には両親を称え、見学の民衆が列をなし、社交界はナイチンゲールの噂で持ちきりであった。

しかし当の本人はクリミア半島でのクリミア熱から九死に一生を得てどうにか回復しはしたものの、リュウマチや喉頭炎、過労からの不眠症に悩まされつつ、山のような日常の業務をこなしていた。その上十分養生せずまた半島にをかけて病院改革を推し進めたので、ますます体力の衰弱は激しかった。何かにつけて心細やかに付き添ったブレスブリッジ夫妻も過労で先に帰国し、ナイチンゲールの身辺はあのやさしいメイ叔母が世話をしていた。具合の悪い時そばで書類の記入や手紙の代筆までしたメイ叔母にとっては、なぜナイチンゲールがそこまでもものに憑かれたように仕事をするのか、理解できないこともあった。

1856年、4月ナイチンゲールが3度目のクリミア半島遠征をしている間に戦争は終結した。連合軍、ロシア双方とも領土の拡大、トルコの国境線の変更は結局不可能だった。甚大な犠牲を支払いながら無益だった戦いの赤字の決算を認め、もはやこれ以上継続は不毛と双方痛みわけの停戦となった。ナイチンゲールがスクタリにきてから1年半、勝利とも敗北とも言えぬ、ただ累々とつながる戦没者の粗末な墓標のみを残して無益な戦争は終わった。犠牲者は双方で10万人とも20万人とも言われる。「この哀れなものたちをクリミアの墓に残して去るに忍びない。決して私はあなたかたのことを忘れはしない」<sup>19)</sup> ナイチンゲールの日記に記されている。ナイチンゲールはクリミアでの最後の傷病兵と看護婦を送り出した後、メイ叔母とひっそりと帰国した。

およそ戦いとは勝利側にも多大な犠牲がつきまとう。多少加害者側に賠償責任が科せられ、償いが実行されたとしても、それが荷重な場合、かえって怨念となって報復の次なる戦いの根となったりする。第二次大戦もまさにそこから起こった。そしてその犠牲者は国や正義を守るという大義のため、または家族を養うために兵隊になった普通の男たちと、質素、儉約や不自由な生活を強いられる一般民衆である。その悲惨な犠牲の証人であるナイチンゲールは、その教訓と自分の経験したことを今後の陸軍兵士の生活環境改善に必ず生かすと心に誓って、帰途についたのだった。

先に生還していた兵士達とハーバード卿など軍の関係者が、盛大な歓迎の準備をして待っているのに、一切晴れがましい栄誉や式典を好まないナイチンゲールは、ロンドンや人目を避けて一人でひっそり我家に帰った。この1年7か月のクリミア滞在で一生分にも値する活動により消耗しきっていた。からだは痩せ細り、精根使い果たし寝れなかった表情の顔をして、髪の毛も短く切ってしまったその頃の肖像画は、見るも痛々しいものがある。しかし自分のやり遂げねばならない使命を秘めた意志は、その幾つもの病いをわずらって崩れかけた細い肉体を支え生かしたのである。しばしの休養の後、まだ数カ月ゆっくり静養が必要と勧める周囲のいうことはきかず、クリミアを発つとき多くの犠牲者の霊にその死を無駄にはしないと誓った自分の次なる仕事、すなわち陸軍の衛生環境改善に乗り出す。

### －陸軍改革委員会－

イギリス陸軍の兵士が本来の戦闘ではなく、栄養失調や伝染病、寒さや疲労で若き命を無駄にしないで済むよう、ナイチンゲールは陸軍改革の実行を決意していた。しかし、看護団長ぐらいの地位では陸軍に直接に働きかける影響力はない。いくらナイチンゲールが上流階級でも、女性には軍のことに表立って口をだすことはできない。その辺の事情に通じていたナイチンゲールは、ハーバード卿、パンミュア卿、その他の有力者を動かすため手紙の連続攻撃を開始した。

陸軍を変えるには王室の下に招集される勅選委員会を作り、クリミア戦争でのデータや経験をふまえて、陸軍病院、野戦兵舎の衛生問題、組織と管理システムを検討し改善に導くしかない。そしてその委員には、自分の意見をよく反映してくれる人が選ばれるようにすること。ナイチンゲールの戦略はまさに彼女の立場で可能な最善の道であった。ナイチンゲールの催促があまりに執拗なので、ハーバード卿もしぶしぶ動かざる得ない。ナイチンゲールは帰国後の翌月、ビクトリア女王が会見の機会を作ってくれたチャンスを生かし、直々に陸軍改革への上申を説得し、なかなか動かない陸軍への後押しを得ることができた。

陸軍省の内部では改革への反対派が当然多く、パンミュア卿も及び腰であったが、ナイチンゲールの「私に見て来たことを国民にすべて話しますよ」という半ば脅迫的殺し文句で、不承不承重い腰をあげたという。<sup>19)</sup> 国民的英雄のナイチンゲールが表立って戦争の実態など公表されては、英国陸軍は立つ瀬がなかったのである。ついにハーバード卿を委員長とし、ナイチンゲール支持派を含めた委員会が、翌年1957年の5月発足した。

### －看護婦であるよりみごとな戦略家・指揮官－

その発足を待つ間、並み居る保守的陸軍の保守層を論破するための理論武装として、「イギリス陸軍の健康、能率及び病院管理に影響を及ぼしている諸条件に関する覚書」をほぼ脱稿していた。それは委員会を通じて彼女が実現したい、陸軍の兵士のための具体的改革案で、食事、衣服、宿舎、衛生などの細部にわたる解説と提案が織り込まれ、本にもできるほどの覚書であった。ナイチンゲールは陸軍省に近いバーリントンホテルに部屋をとり、ハーバード卿を通じて委員会

の動きに応じて、委員会の運び方に細かい指示、論陣の張り方に知恵と戦略を授けた。これを人は本物の陸軍省になぞらえて小陸軍省と呼び、小気味よく進撃するナイチンゲール指揮官の作戦を見守った。この参謀室からナイチンゲールは、委員会を遠隔操作したことになる。

クリミアで彼女を助けた公衆衛生のサザランド博士も、死亡率や物資の供給量などの数字を実際の陸軍兵舎で調査を駆使し、説得材料を集め、協力を惜しまなかった。「イギリス陸軍の兵舎で暮らす若い兵士たちの死亡率の方が一般より高いのはどうしてでしょう」このように調査や統計の数字を駆使して円グラフ、ダイヤグラムにするのは、若いころ父親から受けた薫陶のたまもので彼女の特技だった。感情論や建前論ではない、理論と数字の正当性で説得するのが、クリミア以後のナイチンゲールの手法であった。いわば統計学のパイオニア的存在で、イギリス統計学会会員にも選ばれている。

委員会は将来着手されるであろう改革の実行を想定して、4つの小委員会に分けられていた。「兵舎の衛生」「陸軍の統計局設立」「軍医学校設立」「病院の管理原則」委員会が設けられていたが、そのすべての経過と方向を掌握するため、4委員長をハーバード卿がすべて兼務した。おまけにハーバード卿には、内閣での従来の仕事もあった。現代のように車も携帯電話、ファックス、コピーもない時代、その多忙さは想像を絶する。それぞれの会議の準備やら調整に追われ、その間に各地の陸軍施設の視察、ナイチンゲールへの報告と協議、彼女からの厳しい注文への弁解など、それはハードなストレス、過労を強いたであろう。クリミアの前線ではないもうひとつの戦いが、過去の実戦に参加しなかった陸軍上層部において繰り広げられた。

今度は指揮するのは病みあがりで行動はできないが、闘志は人一倍のナイチンゲール、そしてその命令で動く兵卒は、ハーバード卿、サザランド博士など男性軍、これら陸軍改革の志を一にする忠実で誠実な仲間には、傷病兵に見せた天使のような優しさとは同一人物とは思えない専制君主的、言葉の鞭をふるう激しさがあった。「今ここで、あなたが退いたら陸軍の改革はどうなるのか……。せっかくここまでこぎつけたのに、もとのもくあみになってしまう。それはだめだ……。もう一押ししなければ……。」調査のため遠出し、陸軍省の日常業務をこなし、その後夜遅くまでナ

イチンゲールの小陸軍省で作戦を練るという繰り返しで、過労ぎみのハーバード卿の休暇願いに、「勝ち札をみんな握っているのにゲームを投げ出す人がいますか！ それもこんなに大事なゲームを！」と激しい檄を飛ばすのは、ナイチンゲールであった。

#### 一よき協力者・ハーバート卿の死一

スクタリの病院に到着した看護団のトップとして、目前の重病人が容体を悪化させ死亡に至っても、医師からの看護許可と信頼を得るまで病人に手を出さないよう看護婦に徹底させた、非情なまでの戦略的強さも持っていた。より大きな善なる目的のために、真の優しさは強くなければならないごとく、目先の小さな犠牲に目をつぶる強靱な神経もナイチンゲールは合わせ持っていた。

ちょうど1859年、ハーバード卿が陸軍大臣に任命されると改革のスピードが一躍増したものの、体調がすぐれなかった彼は、激務がたたって腎臓病がますます悪化していた。1860年に公職を退いて静養に徹したものの、既に手遅れで翌年8月、自分の領地で亡くなっている。クリミアで2年足らずの間にナイチンゲールが心身を擦り減らしたように、今度は本国での陸軍改革の2年程の戦いでハーバード卿がその命を縮めた。かれこそナイチンゲールの偉大な崇拝者であり、クリミア派遣、看護学校設立資金となったナイチンゲール基金、そして命を捧げる結果になった陸軍改革と、すべてのナイチンゲールの功績は、彼の存在なくしては達成できなかった。ナイチンゲールの志しがまずあり、ついでハーバード卿の強いバックアップがあり、時と運命が味方し、すべては成就した。

ナイチンゲール自身も病後の弱った体を酷使して、幾つかの著作や報告書を書くかわら、委員会対策活動を行った。その上各地からの病院建設への相談など来客も多く、過労は蓄積され、息切れがひどく、外出もできなくなった。以後ほとんどねたり起きたりの病人生活を強いられ、公の世間とのつながりは手紙や著作活動を通じてのみ保つことになる。そして身近で仕事を補佐するごく身近な人とのみ接触して、残り50年の生涯を過ごした。儀礼的称賛、売名行為一切の虚飾を拒絶した生き様は、“クリミアの天使”を伝説上の人物として後世に伝えるのにむしろ適していた。イギリス大衆にとっては、もはやクリミア戦争で死んでしまったような過去の英雄的人物になってしまった。ナ

イチンゲールのイギリス看護の歴史で残したカリスマ性、また世界に波及した普遍性は、この世間から隔絶された彼女自身の純粹性と存在の神秘性がもたらしたものとと言える。

### 3 社会に羽ばたくハルハウスの人材

#### —社会事業はひたむきな愛に発する—

1890年を過ぎる頃、労働者運動や社会主義活動が世間の注目を集める趨勢から、ハルハウスのレジデントの活動も組合運動や社会主義の運動家たちへの支援が主であるように新聞で伝えられていた。しかし、ハルハウスのレジデントたちの功績と実績は、庶民の日常生活をより人間的な文化的なものへ改善する目的にそった活動の方に、より大きな成果を残している。一般に生活や文化のソフト面への功績というものは、明確な変化として足跡を残しにくく、どうしても政治運動、歴史事象の方が語り継がれやすい。また生活、文化面のレベルアップ活動を革命家や急進的社会運動家は、偽善的な金持ちの気休めの慈善事業と批判する傾向もあった。

しかし、ハルハウスのレジデントたちは、実際身近な裏町で生活に打ちひしがれ、事故や病気で打ちのめされた状況にある家族、困窮の中にあっても懸命に生きるために働き、将来への希望を語る子供や母親のひたむきな姿にうたれ、支援をせずにはいられなかったのである。ナイチンゲールが戦場での無数の兵士の死と犠牲への同情から、陸軍改革と看護学校設立に没頭したように、大きな息の長い仕事は、発端と動機は実に素朴な一途な愛に発している。その純粹さと素朴さこそが、より大きな影響力と普遍性に通じる。そして二人の共通の基盤は「いのち」であり、それを生み出し、育てる労を厭わない女性本来の姿勢であった。

二人とも個人的には結婚もせず家族ももたず、むしろ世話をしてくれる伴侶的助手を身近に必要とした。それは小さなときから甘えられたメイ叔母、若いときからナイチンゲールの気性と才能を理解し協力を惜しまなかったブレースブリッジ夫妻、アダムスの場合はよき仕事の協力者で姉妹のようなエレン・スターだったり、メアリー・スミスだったりした。より大きな共通点は、一番気のおけないはずの家族とは表面的な関係のみ維持し、内面的には葛藤と溝が存在し、心を通わず親密な間柄ではなかったことだ。つまり家族や地域に納まり、安楽な人生を全うする平凡なタイプでは

なかったともいえる。そして子供や夫に注ぐべき愛情を、より広く兵士や看護学生、移民の子供達や若き社会改革者に注いだ。個人の愛を社会化してより広範囲な人々にその慈愛を及ぼしたと言えよう。

#### —スラムの子どもの生活改善へ—

「災いや苦しみにさらされればさらされるほど、人は他の人の情愛を敏感に、感じなければならぬ。」<sup>20)</sup> ハルハウスに集うレジデントも同じように、社会での仕事とその仲間を家族として、広く愛を社会に及ぼす人々であった。そして活動はナイチンゲール同様、実践的かつ科学的であった。工場法の制度化に尽力したローレンス・キリーは工場検査官として、児童労働など違反を摘発し、ハルハウスの法律顧問として訴訟を起こし合法的な活動を続けた。キリーとともに工場法違反を検査したスチーブンスは、印刷業を学び新聞の校正係、植字工として自立した女性労働者だった。後にシカゴ初の女性労働組合の代表を務め、アメリカ労働機構で活躍した。

天然痘やチフス、結核の流行に心痛したハミルトン医師は、ラスロップを中心に地域の清掃状態、下水、水道環境、アパート、住宅の状況などを調査し、ハエの駆除、ごみの処理など多くの改善点を市当局に提案し、運動を起こした。このような生活面に影響する制度的改善、教育、文化活動の向上が何よりの功績であった。児童についての調査ではブリトン夫人が、教育委員会と訪問看護協会の協力で地域の児童300人の無断欠席の原因を家庭の状況から調査し、すべては貧困、経済的原因であると結論づけた。その対応として無断欠席に関する法制化と、ボランティア団体による長期欠席者へのアフターケアを実現した。他にも児童の結核調査、女子工員の結核調査、新聞の売り子の調査など、児童の不法労働と健康問題の因果関係を証明する調査をしている。

ラスロップは郡の救貧院顧問、州立慈善事業委員に任命され、精神病患者、老人、病人、非行少年の収容施設を別にすること、職員は専門訓練を受けたものに限るなどの改革を実現した。州内の貧困家庭で公的扶助対象となっている102軒の家庭を訪問し、その生活の実態調査なども行った。その他地域の不良少年の補導のため警察官に準ずる権限を持たされた数人のレジデントの中から、クック郡初代保護監察官が任命された。彼女達は、長年あらゆる貧困と差別、不幸に抵抗



している子供達をハルハウスに保護し、その翼の下にしばし庇護したのである。

1907年、アメリカ最初の少年裁判所<sup>21)</sup>は理想的な建築物で、鑑別所を併設し、専門職員によって運営されていたが、ハルハウスと少年保護協会はこれに人的にも情報面でも有形無形の協力を惜しまなかった。親が貧困であったがために成長期のからだを労働で酷使し結核で亡くなっていく少年少女、場末の荒んだ男たちの中で自堕落しか手本とできなかった不良少年たちへの同情、その社会の不条理な宿命への怒りがレジデントたちの行動の原動力であった。そのような怒りと不条理さを感じる教養と価値観、その改善への行動力を持ちあわせた人々をインテリゲンジャと呼ぶなら、まさにナイチンゲール、アダムスの周辺の人々はそうであろう。またその不正への怒りの情念につき動かされ、正義のため行動する使命感を英国貴族の行動規範では "noble oblige"<sup>22)</sup> (高貴なる使命感) として古来尊重されている。知ってしまった以上それを伝え、行動を起こすべきだという知者の束縛は、知らないことは無関心と呼び、最後に差別を生むという経験からきている。

### — 移民の子供たちの危うい生活 —

どこの国でも移民の一世代は、文化や伝統、心の故郷、ルーツがしっかりしている。外国に移住して言葉や習慣への適応が遅くとも、生活向上という目的意識があるので犯罪や退廃的に陥らずに済むという。「かれらは日曜日には晴着に着替えて、いとこを訪ねていく。かつて歩いたたんぼ道を田舎の空気を吸っているかのように喜々として歩いていく。しかし2世になると晴着もなく訪ねる家もない。かれらの仲間はやくざものである。飲んだくれの父親が、田舎の母親のこと、牛を飼っていた昔の話しをすると、小さな息子は、はやくも酒を飲んで酔っ払っている」<sup>23)</sup>

親の国にも米国にも精神的基盤をもてない2世代目の青少年には、非行、生活の墮落がどうしても多くなる。この傾向に心を痛めたハルハウスのレジデントは、多種多様な青少年クラブ、音楽教室、図書館、スポーツ活動、遊園地などの設置、ハイキングなどの行事、ホールでのダンスパーティーなどあらゆる健全な教育活動の場を提供した。1909年に出版され大きな反響をとった『街路と子供達の心』は、アダムスがいかにハルハウス地域の子供達の問題に関心をよせているかを

証明している。その中で自分たちの子供時代のように自然の野原で生まれる環境と違って、現代は誘惑が多すぎることで、また若者が工場で労働する場合、機械的単純作業では創意工夫の意欲を失いやすく、チーム作業が奨励されることを提案している。<sup>24)</sup>

そしてその網からこぼれ落ちそうな青少年のために、少年保護協会と協力してたばこや酒の未成年への不買、映画や猥雑な写真などの制限、コカインの未成年販売制限にも精力的な運動を展開した。イタリア地区の薬局では堂々とコカインが売られており、薬局関係者の圧力や脅迫にも拘わらず運動を根気良く続け、1907年に法制化にこぎつけた。その動機のひとつは子供時代にハルハウスの幼稚園、児童クラブに参加していた元気な明るい少年が薬に蝕まれ、10年後骨と皮ばかりの老人のようになって、棺に横たわった遺骸を見た時の怒りであった。<sup>25)</sup>

ロシア系ユダヤ人、東欧からの移民の子供には音楽に天賦の才能を見せる子供が多かった。1893年に専用の建物を作り、個人の徹底したコーラスや楽器の指導がなわれ、クリスマスや行事でその歌声や腕が披露されると、親は我が子の自慢の晴れの舞台に恍惚とし、聴衆は荘重な感激に浸った。「私は音楽が人々の差異を忘れさせ、人間すべてに訴えることのできる、最大の武器であることを悟った」<sup>26)</sup> しかしこの15人の生徒のうち優秀な6人が結核にかかっているという、悲惨な現実もあった。

### — 教育改革においても中道的立場の困難さ —

義務教育の後、恵まれた家庭なら生活の糧の心配もなく、音楽の才能を伸ばすことだけに専念できるのに、財産のない親をもったがため、空気の悪い工場での長時間労働により胸を病む子供達。世の不条理、神の摂理とは言え体中に怒りを感じる。それがアダムスとナイチンゲールを行動に駆り立てた。「現代産業に貪り食われている芸術の子供達を見て、私はなす術もなかった。なぜ人類文化の完全な財産である貴重な才能を無駄にしてしまわねばならないのか。私達はこの宝ものを積み込む船を準備することができず、徒に苦難の多い地上を旅させ、取り返しのつかない損失をしているのである。」<sup>27)</sup>

芸術家のエレン・スターの絵画教室は公立学校にまで拡大され、彼女は公立学校芸術協会設立の中心人物となり、初代会長に就任している。アダムス自身、児

童の多くが学校の内容に興味を失い、賃仕事のため無断欠勤が多い傾向を調査により苦慮しており、公教育、学校内容について大変関心をもっていた。多くの児童のための活動を見込まれて1905年、シカゴ、教育委員会のメンバーとなったが、当時の教職員組合は俸給と教育活動の自治を主張して、教育委員会と過去10年裁判で争っていた。ここでもアダムスは教職員組合と教育委員会の間に入って、両者の利害を調整しようとして、労働組合のストライキの調停の時と同じ立場に追い込まれた。つまり賢明に両者の言い分を歩み寄せ、児童のために教育現場にとり最善の改革をと動きながら、どちらからも恨まれる結果になるのだ。

過去において両者の間には、教科書、校舎建設などの業者委託する場合、馴れ合い的に利益をたかる政治家が介入していた。どこの国にも似たような政治的腐敗が存在するが、それを根絶するため、シカゴ市長はあらゆる権限を教育委員長に付与した。しかし能率的、合理的に学校と教師を管理しようとする教育委員会と、民主主義と教育の専門家たるに十分な待遇を要求する教員組合はやはり対決する宿命にあった。教育委員会は学校管理委員会を設置してこの対立の妥協点を見いだそうと、多くの良識ある実業家、学識経験者が様々な教育制度改革策、学校改革案を提案したが、常にどちらかが拒否し、提案のことごとくが無に帰し、委員も空しさにやる気を失っていった。ニューヨーク州では実現したクラス定員小規模化、長期欠席児童の特別指導、運動場の拡大など、子供への愛情ある計画がすべて廃案になったのである。アダムスも「学校管理委員会の活動を揶揄する新聞の公共性に失望し、挫折感を味わった数少ない仕事と4年間であった」<sup>2)</sup>と回顧している。大人の権力抗争の狭間で、守られるべき子供の環境が犠牲にされる現実、大は社会において、小は家庭において現代でも多く存在する。

### 一女性も政治への発言権をー

アメリカの女性選挙権運動は南北戦争後に組織され、アダムスの母校ロックフォードカレッジは婦人選挙運動のセンターであった。1906年に全国アメリカ女性選挙権協会に参加してから、アダムスは積極的にシカゴ、イリノイ州各地で演説やキャンペーンに参加する。それまで女性の選挙権について共鳴と賛成はしていたものの、積極的にその運動に拘わらなかったのは教条的  
女権拡張論者ではなかったからである。無論セツルメ

ントの活動が多忙を極めたこともあるが、女性が政治への発言権を行使しなければ、乳幼児の健康も、児童の教育も、少年少女の情操も、地域の公衆衛生も、女性の主張も守れないことがはっきり分かってきたからである。1893年の工場法をより労働者の安全を期したものにするため、健康保護基準（鉛毒、換気、安全性）、最低賃金基準、労働時間（一日8時間、週6日）を織り込んだ産業環境改革を実現するには、女性の選挙権が必要だった。その他貧困家庭への公的扶助の実現など売春、要保護児童ケアの問題など女性的視点での改革はあまたあった。

そしてそれらを支持してくれると約束した共和党のルーズベルト大統領<sup>3)</sup>を数年にわたって応援し、女性選挙権協会（NASWSA）、全国慈善矯正会議（NCCC）などでアダムス自身副会長、会長として活躍した。彼女のマスコミに与える影響力は大きく、“アダムス大いなる戦いに連なる”と評され、共和党にとっては100万の味方、ルーズベルト再選に大きな力となるとも言われた。ルーズベルトは大統領任期中2度ハルハウスを訪れているが、ソーシャルワーカー団体と共和党の初期の密月も、アダムス以外のソーシャルワーカーを急進的とみる共和党と、アダムスは大統領再選のために共和党から利用されているという仲間側の批判、そして民主党のウイルソン大統領<sup>4)</sup>候補の劇的勝利で終わりを告げる。民主党のウイルソンは児童労働法、8時間労働など次々と成立させ、共和党時代より婦人参政権運動もより活発化して、アダムスは国際婦人参政権協会の会議で世界を飛び回るようになる。

### 注

- 1) プリマス マサチューセッツ州海岸の村で1620年、本国で迫害されたイギリスのピューリタンたち、ピリグリム・ファザーズかメイフラワー号に乗って上陸した地点で、現在それを記念し当時を模倣した公園になっている。
- 2) ハルハウスの最初のレジデントで母親はアダムスの母校ロックフォードの最初の卒業生で普通選挙、婦人参政権の支持者、父親は法律家で政治家であった。本人は1880年カレッジを卒業後、父親の法律事務所の秘書をやっていたが物足りなく、思いあぐねてハルハウスのニュースを聞かや駆けつけた。後の活躍は後述。
- 3) ジェーン・アダムス著 柴田善守訳「ハルハウスの20年」岩崎学術出版 91頁
- 4) 同 91頁

- 5) 同 94頁
- 6) Heymarket Square Riot、シカゴの飼料や干し草を売買する市場のある広場で1886年5月に起きた、労働者のストライキから発展した騒乱。死者1名、負傷者60名を出した。
- 7) アナーキストとも言う。19世紀フランス、イタリア、スペインなどの若い労働運動家に生まれた、ブルジョア社会主義のひとつ。政治闘争、あらゆる国家権力を否定し、個人的テロにより制度を覆し、国家のない社会を建設しようとする人々。クロボトキン、バクーニン、日本では大杉栄、幸徳秋水が有名。
- 8) シカゴ博覧会 1893年のシカゴ博覧会は「世界コロンブス博覧会」としてコロンブスアメリカ発見400年を記念して大規模なものが催された。600エーカーの土地に公園、各国の特色ある庭園、目も覚めるような真っ白なコロニアル風建築物などで、この会場は「巨大な白い町」と呼ばれる程だった。この世界的注目を集めた博覧会には、毎週2千人の見物人が世界中、アメリカ全土から集まってきた。この時期イギリスのシドニー・ウェッブ夫妻もハルハウスを訪問している。また、ナイチンゲールはこの博覧会に「病人の看護と健康を衛看護」という論文を寄せている。
- 9) 唯物論的マルクス経済 19世紀の弁証法的唯物論に理論基礎をおく経済学理論で、物質こそが根本的实在で、それらには矛盾/対立が内在し、闘争と統一によって発展するという唯物史観にたつ労働価値説と剰余価値論を基礎に、資本主義社会経済運動法則を解明した。『資本論』によって体系づけられ、レーニンによって発展した。
- 10) 前掲『ハルハウスの20年』経済論争の10年 137頁
- 11) 同 133頁
- 12) プルマン工場ストライキ 1894年鉄道用の寝台車と食堂車を製造している大工場で、その労働者で町を形成していた。不況のため賃金が40%カットされたが、会社が貸している住居の家賃、食料品などは値下げされず、労働者組合が会社に賃金支払い家賃などの値下げを要求してストライキに突入した。ちょうどアメリカ全土の鉄道組合に属していたため、全国的に鉄道が止まるストになり、国民生活に与えた被害は大きかった。
- 13) イリノイ労働法 1911年アメリカ全土に先がけてハルハウスレジデントの熱心な運動により、成立した女性と児童の深夜労働の禁止、10時間労働の厳守など画期的法律。これに習って他の州にも労時間、労働環境を規制する法律が成立し始めた。
- 14) 少年裁判所 1899年クック郡にアメリカで最初にできた。これもハルハウスのレジデントの運動のたまもので、他の州にも広がっていく。注21) 詳細参照
- 15) 前掲『ハルハウスの20年』移民と子ども 150頁
- 16) 同 「ハルハウス開館」 71頁
- 17) 女王の夫君アルバート侯のデザインで白に赤の七宝でセントジョージクロスを中央に配し、ダイヤの王冠がおかれ、クリミアの文字、周囲に「The Merciful Blessed Are」「幸いなるかな慈悲にとめるもの」、裏には「女王の勇敢なる兵士に示したあなたの献身に対する尊敬と感謝の印として、1855年 ヒクトリア女王」が刻まれた。
- 18) 「クリミアの天使、ナイチンゲール」セシル・ウッドム・スミス著、吉田新一訳 学研
- 19) 国土社「ナイチンゲール」小玉香津子 178頁
- 20) 『ハルハウスの20年』「クラブ活動の価値」 261頁
- 21) アメリカ初の少年裁判所で法曹界、セツルメントのレジデントによる8年間の運動の結果、クック郡に創設された。貧困や母親の過重労働による非行の原因には、処罰より矯正や家庭生活の支援の方が有効であるという見地から、1909年要保護児童に関するホワイトハウス会議の勧告の波及効果である母子扶助法制定、そして米国全土への少年裁判所設立へつながる。
- 22) ノーブル・オブリージュ 英国の貴族階級はいざ闘いになると兵士たちの先陣をきって指揮をとりリーダーシップを発揮した。これが上層階級たる貴族の使命感でもあり、第1次大戦では死亡率も士官学校卒（貴族階級の子弟）の方が高かったという。
- 23) 『ハルハウスの20年』「移民と子供」 169頁
- 24) 同上 176頁
- 25) 同上「社会活動と調査」 217頁
- 26) 同上「ハルハウスの芸術」 278頁
- 27) 同上 274頁
- 28) 同上「行政への影響力」 243頁
- 29) Th. ルーズベルト大統領 (1901-1909) マッキンレー大統領暗殺により、副大統領から大統領を2期努める。労働運動が隆盛し、ストライキが相次いだ時代それを治め、南米へのアメリカ進出など功績をのこした。しかし後にニューナショナリズムを提唱、連邦政府の権限強化を主張してタフトと分裂し、進歩党を結成する。
- 30) ウィルソン大統領 (1913-1921) タフト大統領の後、共和党のルーズベルトとの選挙戦に勝ち、民主党の政治を行う。ちょうど第一次大戦、大規模ストライキ、ハイチ動乱、メキシコ内戦など難題をかかえ次のハーディングに譲る。